

「元気な鶏から最高のたまごが生まれる」を モットーに直販の実践



有限会社 熊野養鶏
(くまのようけい)
愛媛県四国中央市妻鳥町

推薦理由

(1) 昭和30年養鶏経営開始。昭和58年には、企業経営への取り組みとして、県下農家中でもいち早く法人経営（有限会社 熊野養鶏）を設立している。

(2) 平成7年には現社長が香川県高松市からUターンし就農する。

そして、平成8年に「美豊卵」（美しい卵 豊かな食卓 産みたて卵）として、商標登録し特殊卵として販売している。

また、卵の生産には自家製の発酵飼料を使用し、その飼料をベースに海草粉末・もみがら炭・ガーリック等10種類以上の厳選した副原料を配合給与するとともに、繊維分解酵素のセルラーゼを添加し飼料効率の向上を図っている。

なお、鶏の飼育管理を従来の1ケージ2羽飼育から1ケージ1羽の飼育に変更し鶏のストレスをなくし、集卵についても1日に2回実施しており非常に新鮮で、味も良いとの消費者から評価を得ている。

このようなことから、愛媛県鶏卵品質改善共励会において優秀賞や最優秀賞を連続受賞するなど鶏卵の品質についても申し分ない。

(3) 家畜ふん尿処理については、鶏ふんは毎日除ふんに努めるとともに、消臭効果のあるといわれるEM菌・A I - 1菌を鶏ふんに散布するなど適切なふん尿処理に努めている。

(4) 県内養鶏農家中でも、いち早く自動販売機での鶏卵販売に取り組み地場販売の拡大に努めている。

また、平成19年11月には「たまごかけ御飯」の専門食堂を併設する鶏卵直売店を開業するなど生産から販売まで一貫した経営で収益性の向上を図っている。さらに、販売における付加価値創出のために燻製卵や温泉卵等の特色ある加工品をつくるなど、家族一

丸となって養鶏経営に取り組んでいる。

(愛媛県審査委員会委員長 戒 能 豪)

発表事例の内容

1 地域の概況

熊野養鶏の所在する四国中央市は愛媛県の東端部に位置し、東は香川県に面し、南東は徳島県、更に南は高知県と4県が接する地域となります。県都松山市と高松市へは約80km、高知市までは約60km、徳島市までは100km、大阪市へ300km、東京都まで800kmの距離にあります。

地形は、東西に約25kmの海岸線が広がり、その海岸線に沿って東部には全国屈指の「製紙・紙加工業」の工業地帯を擁し、その南には広大な農地が広がっています。

さらに南には急峻な法皇山脈から四国山脈へと続く山間部を擁し、この豊かな自然により水という恵を与えられ、産業や生活が支えられています。

また、当市は高速道路網の整備により、三島川之江・土居・新宮の3つのインターチェンジと川之江ジャンクションを持ち、四国の「エクスハイウェイ」の中心地となっており、各県の県庁所在地にほぼ1時間で結ばれるという好条件にあります。

当市の耕地面積は水田1,650ha、畑198ha、樹園地462haの合計2,310haとなっています。なお、総農家戸数は3,271戸で、販売農家戸数1,786戸、専業農家戸数471戸となっており、農業就業人口は2,989人となっています。(愛媛農林水産統計年報18~19年による)

平成19年度の農業産出額は695千万円で米77千万円、野菜164千万円の耕種合計が332千万円、畜産が362千万円(52%)を占めています。そのうち豚が155千万円、鶏は188千万円(畜産に占める割合は52%、農業全体では27%)となっています。愛媛県の鶏の産出額に対する比率は20%を占めています。

平成20年2月1日現在の飼育頭羽数では乳用牛5戸(x頭)、肉用牛7戸(170頭)、豚23戸(26,100頭)、採卵鶏20戸(729千羽)で採卵鶏は愛媛県の21%を占めています。

1) 労働力の構成 (平成 20 年 6 月現在)

区分	経営主との続柄	年齢	農業従事日数 (日)		部門または作業担当	備考
				うち畜産部門		
構成員	本人	38	320	250	総括、成鶏の飼料給与、鶏ふん収集他	社長
	妻	38	300	100	店舗、食堂、経理	店長
	父	70	320	320	育雛・育成管理、鶏ふん処理等	取締役
	母	63	300	150	洗卵、食堂	
従業員						
臨時雇	のべ人日		0.5 日×10 人×300 日 1,500 人			

2) 収入等の状況 (平成 19 年 7 月～20 年 6 月)

部門	種類・品目	飼養頭数・面積	販売・出荷量	販売額・収入額	備考
採卵鶏	鶏卵	20,275	405,505	98,211,461	
	鶏ふん			329,086	
	その他			2,596,620	
合計				101,137,167	

3) 経営の実績・技術等の概要

(1) 経営実績（平成18年7月～平成19年6月）

経営の概要	労働時間	家族・構成員	9,920 時間	
	(畜産)	雇用・従業員	8,117 時間	
	<労働従事人数(家族・構成員)>		4 人	
	<労働日数/1人(家族・構成員)>		310 日	
	労働力員数 (2,000時間換算)	家族・構成員	5.0 人	
	(畜産)	雇用・従業員	4.1 人	
	成鶏平均飼養羽数		23,117 羽	
	年間鶏卵生産量		470,976 kg	
	年間鶏卵出荷量		470,976 kg	
収益性	採卵鶏部門年間総所得		15,810,761 円	
	成鶏100羽当たり年間所得		79,660 円	
	所得率		14.7 %	
	成鶏 100羽 当たり	部門収入		468,263 円
		うち鶏卵販売収入		463,877 円
		売上原価		440,368 円
		うちもと雛費		24,032 円
		うち購入飼料費		201,893 円
うち労働費		101,157 円		
うち減価償却費		17,665 円		
生産性	成鶏100羽当たり年間鶏卵生産量		2,037 kg	
	成鶏100羽当たり1日当たり産卵量		5.6 kg	
	鶏卵1kg当たり平均販売価格		228 円	
	GP		140.0 円	
	産直		287 円	
	直販割合		60 %	
	成鶏100羽当たり1日当たり飼料消費量		11 kg	
	飼料要求率	成鶏	2.00	
		全体	2.25	
	育成率(初生雛)		100.0 %	
	育成率(中大雛)		100.0 %	
	成鶏淘汰・へい死率		100.0 %	
	成鶏補充率		100.0 %	
鶏舎1m ² 当たり年間鶏卵生産量		130 kg		
鶏舎1m ² 当たり成鶏飼養羽数		7 羽		
安全性	総借入金残高(期末時)		1,800 万円	
	成鶏100羽当たり借入金残高(期末時)		77,865 円	
	成鶏100羽当たり年間借入金償還負担額		25,954 円	

(2) 技術等の概要

経営類型	採卵養鶏	
飼養品種	後藤のもみじ	
鶏舎構造	育すう舎	ウインドレス鶏舎
	育成舎	開放
	成鶏舎	開放(ひな段3段) 1ケージ1羽
生産	オールイン・オールアウトの実施	群別のオールインオールアウト
	強制換羽の実施	現在は実施していない
	デビークの実施	えつけ時
飼料	自家配合の実施	醗酵飼料
成鶏の更新方法	545日齢で群別のオールインオールアウト	
GPセンターの有無	選卵選別	
インデグレーション参加の有無	無	
生産部門以外の取り組み	鶏卵直売所5ヵ所に自動販売機25台を設置するとともに「たまごかけ御飯」専用食堂への取り組み中である。	

4) 家畜排せつ物の処理・利用状況

(1) 処理の内容

処理方式	
処理方法	たい肥化処理：毎日スクレーパーにより除ふんを行い、EM菌・AI-1菌を散布し、戻したい肥による水分調整を行い堆積、発酵（4ヵ月）切り返し（7回）、鶏ふん篩器で分別（12mm以下）し、袋詰めする。
敷料	使用していない。

(2) 利用の内容

内容	割合 (%)	用途・利用先等	条件等	備考
販売	100%	スーパー発酵鶏ふんとして地域内で販売している。	1袋(20kg)100円	
交換				
無償譲渡				
自家利用				

3 経営の歩み

1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養羽数	飼料作付面積
昭和 30 年	養鶏	50	父親が養鶏経営を開始
〃 50 年	採卵鶏	20,000	成鶏舎新築 (10,000 羽)
〃 56 年	〃	20,000	松山自動車道の造成に伴う立ち退きにより、 現在地に移転し、四国で初めての全自動鶏舎 が完成する。
〃 58 年	採卵鶏	40,000	法人経営に転換し、20,000 羽を増羽する。
平成 5 年	採卵鶏	40,000	鶏卵の自動販売機を松山自動車道の出口に 1 号店 5 台設置
〃 7 年	〃	40,000	現社長 Uターンし経営に参画
〃 8 年	〃	40,000	美豊卵の商標登録 増設 6 台増設し 2 号店を自宅前に出店
〃 11 年	〃	40,000	3 号店新居浜に 6 台出店
〃 12 年	〃	40,000	4 号店ジャスコ川之江店の近く 3 台出店
〃 13 年	〃	40,000	代表取締役社長に就任
〃 14 年	〃	40,000	鶏卵の小売販売に傾注しインターネット販 売等による県外販売の増加に努力する。
〃 15 年	採卵鶏	40,000	加工場整備 5 号店山田井店舗開設
〃 16 年	採卵鶏	40,000	鶏ふん発酵機・たい肥化処理施設設置
〃 17 年	採卵鶏	30,000	自家配合発酵飼料の給与
〃 18 年	採卵鶏	25,000	卵専門店「熊福」の开店準備 (資金・設計) 加工卵の開発
〃 19 年	採卵鶏	20,000	卵専門販売店「熊福」を開店、食堂を併設 現在に至る。 1 ケージ 1 羽飼養に転換

2) 過去5年間の生産活動の推移

	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年
畜産部門労働力員数 (人)	5.5	5.5	5.5	4.0	2.5
飼養頭羽数 (羽)	39,168	38,793	38,599	30,451	23,117
販売・出荷量等 (kg)	724,608	717,672	733,396	578,564	470,976
畜産部門の総売上高 (円)	132,617,918	121,054,172	144,791,509	119,488,029	108,300,806
主産物の売上高 (円)	121,734,236	111,956,777	140,812,078	118,079,797	107,286,910

4 特色ある経営・生産活動の内容

(1) 飼養規模は、約2年前までは約40,000羽を1ケージ2羽飼いで飼育していたが、徐々に減羽し、現在では1ケージ1羽の飼育で20,000羽を飼養しているため余裕を持った飼養管理となっている。また、従来は強制換羽も実施していたが鶏卵の品質と生産性を考慮するとともにサルモネラ等の発生確率を考え安全性の高い卵を生産するために強制換羽は中止している、このため更新率は高く100%となっている。

(2) 飼育環境は開放鶏舎であるが、換気扇等の活用により通風・換気に注意し、「元気なニワトリから最高の卵が生まれる」ことをモットーで国産にこだわり、国内の卵用鶏では数%しかいない純国産鶏の「もみじ」を飼養している。特徴は国産唯一の赤玉鶏で日本の風土に合い、大型で丈夫な鶏で、黄身も大きく、安全で美味しい卵を生産する。また、卵の70%以上は水分で、鶏が飲んだ水が卵に移行するので、水にもこだわりをもち、「プロスアクティブウォーター」「FFC原始活水器」「EMセラミック」で処理した生物の機能を高めるといわれている水を与えている。また、給与飼料の60%を占めるトウモロコシはPHF（収穫後消毒をしない）を使用するなど「エサ」にもこだわり付加価値を高めた「美豊卵」を商標登録し、地域消費者やインターネットでの通信販売により収益性を高めている。

(3) 鶏卵の品質向上のために飼料は自家製の発酵飼料を使用している。これは、昔から「人間が食するもので味噌、醤油、納豆などの発酵食品は体によい」とされていることから、鶏にも発酵した飼料を給与することによって、健康に育ち、美味しい卵の生産ができるとの考えから実践している。

また、卵の質は与える飼料で決まるといわれており、一般的には市販の添加物を餌に混ぜて与える方法がとられているが、当農場では発酵飼料をメインに海草粉末・もみがら炭・ガーリック等10種類以上の厳選した副原料により配合割合を研究した飼料であり、ビタミン・ミネラル等の成分が高くなっている。

(4) 鶏卵販売については県内5ヵ所に鶏卵自動販売機を25台設置し、新鮮な卵を消費者の近い場所で購入してもらえよう直販にも力を入れている。さらに、県外へはインターネットでの通信販売にも力を入れて直販の向上に努め販売価格をアップしている。

また、販売における付加価値の創出のためには、これらの取り組みだけでなく、特色

ある加工品も作っている。特にこだわりを持って作っているのは、燻製卵「薫ちゃん」で、燻製独特の香りを引き出すのは桜のチップである。このチップは試行錯誤しながら最良の香りを引き出すために苦勞をした結果である。その他温泉卵の「泉ちゃん」とほんのり塩味の「塩味ちゃん」を販売している。あいテレビ「お茶ドキ」にて「川之江の名産」として放映され消費拡大につながっている。

- (5) 当養鶏場で生産する「美豊卵」は原原種鶏から卵までの一貫したトレーサビリティが可能で、付加価値の高い商品として事業の柱にするというねらいから「美豊卵」とは先代の社長である父親が美「美味しい卵」豊「豊かな食卓」卵「産みたて卵」に由来している。
- (6) 平成 19 年 11 月に卵専門店「熊福」を開店し「美豊卵」の美味しさを実感してもらうことを目的に「たまごかけ御飯」の専門食堂を併設し、新鮮な卵の販売の他に定食を提供している。昼食時には定食を求めて近所の主婦や、家族連れ、口コミで広まった若い人たちも訪れ、固定客も徐々に増えてきて提供されるメニューは、ご飯・味噌汁・漬物がセットの「たまごかけ御飯」とこの定食にオムレツが付いた「オムレツ定食」の 2 つがあり販売拡大の 1 つとなっている。

5 地域農業や地域社会との協調・融和のために取り組んでいる活動内容

熊野養鶏は、安全で安心して食べてもらえる卵を提供するために、平成 18 年より消費者との交流を毎年開催している。鶏舎内の見学は防疫上から困難だが「熊福」を利用し、生産の状況や卵についての情報を画像で紹介しながら生産現場の現状と卵の栄養などの理解醸成に努めている。

また、来店できない消費者のことも考えて、インターネットを活用しヒヨコの成長を写真付きで紹介する他家族の近況、地域のイベント情報などを提供し、消費者が普段目にすることができない生産現場と各種情報も積極的に提供し消費拡大に努めている。

環境整備のために鶏ふんの処理として EM 菌と AI-1 菌を散布することにより臭気が抑制されているため、周囲からは好評を得ている。

地域の農業・畜産と共栄・共存のための活動としては四国中央市青年農業者協議会の養鶏部会の部会長として地域養鶏の振興に寄与している。

夫人は平成 19 年に愛媛の畜産女性ネットワークの設立発起人として設立に努力され、「めぐり愛・媛ネットワーク」の副会長として、リーダーシップを発揮するとともに愛媛の畜産の発展に貢献している。畜産物を使った料理教室や自作紙芝居の公演などを通じて県内の消費者との交流や子どもたちへの食育活動を積極的に展開している。

また、「熊福」はこれらの活動打ち合わせ場所としても活用している。

6 今後の目指す方向性と課題

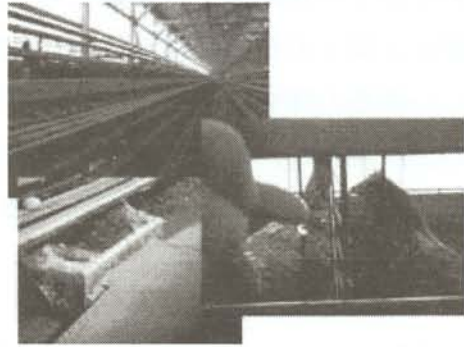
中小採卵養鶏農家の今後は、産卵成績等の技術水準は大規模養鶏に劣らないものとなっているため今以上の技術向上は困難と考えている。

経営の安定と向上のためには流通面の改善が大切と考え、直販体制を整備するとともに、さらに新しい商品の開発（鶏飯（かしわめし）、卵豆腐、プリン、卵焼き、惣菜の製造・販売、親鳥の炭火焼き等）による販路の拡大を図り、多角化することが少羽数規模で経営を安定させていくために求められるが、それらを実践する考えである。

【写真】



成鶏舎の全景



開放鶏舎であるが、換気扇等の活用により通風、換気に注意し1ケージ1羽飼育にしている。



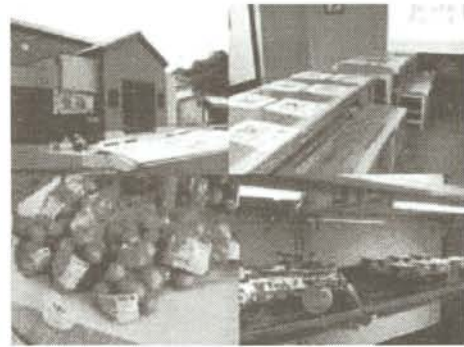
販売における付加価値の創出のために、特にこだわりを持って作っている、「燻製卵 薫ちゃん」。



鶏卵販売については県内5か所に鶏卵自動販売機を25台設置している。



鶏卵の品質向上のために、飼料は自家製の醗酵飼料を使用している。



卵専門店「熊福」。たまごかけ御飯」の専門食堂を併設している。



たまごかけ御飯」と独特の醤油がさらに食欲をそそる。



生産現場を動画で提供するなど、畜産に対する理解醸成とともに、消費拡大に努めている。